

「教養日本力」高度化推進プログラム 秋田出張報告

訪問先	公立大学法人国際教養大学 (AIU)
出張期間	2007年11月20日 — 11月22日
出張者	河路 由佳
訪問目的	国際教養大学における「教養日本力」関連の授業科目——教養教育としての「日本語・日本学」——に関する情報収集、授業見学、意見交換を行い、来年3月に実施予定のシンポジウムの報告者について交渉を行う。
記録方法	見学・打ち合わせ内容をノート、PCに記録、一部ビデオ撮影
入手資料	『公立大学法人国際教養大学大学案内』『同 学生便覧』『Course Catalogue 2007-2008』ほか
授業見学	日本語中級「日本語ライティング」(佐野ひろみ先生) JPL201 日本語初級 (小西知代先生) JPL102 日本語初級 (橋本洋輔先生) 「日本語表現」(鮎澤孝子先生) 「Teaching Japanese as a Second Language」(阿部祐子先生) 「Cultural Background of Japanese Language」(阿部祐子先生) 「MANGA MANIA」(アシュモー先生) 日本語入門 (小西知代先生) 「Pronunciation」(鮎澤孝子先生)
参加行事	ロシアからの研修生の送別会 2008年度開講予定の AIU 大学院グローバルコミュニケーション実践研究科 日本語教育実践専攻コース説明会
懇談報告	鮎澤孝子教授、阿部祐子准教授と本プログラムの趣旨と AIU のカリキュラムにおける「日本語・日本学」について懇談を行った。 (1) AIU のカリキュラムにおける「日本語・日本学」の位置づけと開講科目 * 一般学生向けの Basic Education の中の Global Courses の中の Japanese Language & Japan Studies に 16 の講義。 講義は原則として英語で行われる。留学生も履修可。 「Introduction to Japanese Language Studies」「Sado: Tea Ceremony」「Shodo: Calligraphy」「Kado: Flower Arrangement」 「Japanese Traditional Performing Arts」 「Japanese Religion」 「Japanese Politics」 「Japanese Economy」 「Teaching Japanese business Culture」「Japanese Literature」など。 例外的に「Teaching Japanese as a Second Language」は授業が主として日本語で行われる。

	<p>*留学生向けの Japanese Courses of International Studies の中の Japan Studies に日本語で行われるもの 5、英語によるもの 10。</p> <p>日本語によるものは「日本の権力構造」「日本文学概論」「世界における日本美術史」「日本の政治」「日本社会論」</p> <p>英語によるものは「Doing business in China」「Japanese and East Asian Architecture」「Marketing in Japan」など。</p> <p>日本語による授業は一般学生履修不可。英語による授業は一般学生も履修可。</p> <p>(2) 2008 年度開講の AIU 大学院グローバルコミュニケーション実践研究科について</p> <p>日本語教員、英語教員、通訳翻訳者の実務家養成目的とする。教員に実務経験者を配置。定員 30 名 9 月入学の二年コース</p> <p>(3) 教養科目の見直しについて</p> <p>AIU の「日本語・日本学」は設立計画の段階ではミネソタ州立大学時代のカリキュラムをひきついだものも多いとのこと。開学から 4 年間は設立申請時に作成された計画どおりにカリキュラムを運営する必要があったが、5 年目を迎えるに際して、大幅な見直しを行っている。</p> <p>(4) 2008 年 3 月 8 日実施予定の本学におけるシンポジウムの報告者について。</p> <p>阿部祐子先生に依頼、承諾を得た。阿部祐子先生は、学生部長経験者で、現在「Liberal Arts Education」の検討委員会の委員。AIU の前身であるミネソタ州立大学秋田校時代からの教員で、AIU のカリキュラムについて諸事情に明るい。</p>
感想	<p>1 年間の外国留学が義務付けられ、一般学生対象の授業がすべて英語で行われるという特色ある教育を行っている AIU における日本に関する教養科目の実態についてお話をうかがい見学をし、理解を深めることができました。見学したクラスはいずれも 25 名以下の少人数で丁寧な教育がなされていた。小ぢんまりした大学で、学生と教員の距離が近く、学生たちのマナーがよいように見受けられた。開学 4 年目という歴史の浅い大学でありながら毎年入学希望者の競争率は高く、いわゆる難関大学のひとつになるなど、順調な成果をあげているようである。日本語による高等教育がなされない分、学生たちの日本語力の向上には課題がある。今回初めての卒業生を出すにあたって、教員も学生もそのことを認識したという話であった。そのあたりが今後どう考えられてゆくのか、関心をもたれ、シンポジウムでの報告が期待される。</p>